

### Ⅲ 課題解決に向けて

#### 2 開かれた組織運営、ネットワークによる広がり

青少年の体験活動やボランティア活動を継続的に実践するには、活動の拠点となる場を持ったり、活動を支える組織的な機能を整備していくことも必要と思われる。特に中学生や高校生・大学生・青年がボランティア活動を続けていくためには、周囲の見守りやアドバイスが大きな力となっている。

ここでは、足利市の高校生を中心とした『ボランティアグループ“風”』の活動を紹介する。

#### ボランティアグループ“風”

「高校生の活動の場を広げるためにはどうしたらいいか？」ということを出発点として、ボランティアスクールの修了生を中心に結成し、メンバーが入れ替わるといって高校生グループの活動を14年も継続している。卒業生が様々に支援をしており、ボランティア活動で育った人材が高校生の自主運営を可能としている。青少年の体験活動・ボランティア活動の一つの先駆的なモデルとなっている。

**【目的】**      メンバー同士の交流を図りながら福祉、ボランティア活動について考え、実践していく中で自己啓発すると共に、ボランティアの輪を広げること。

**【モットー】**    できる人が、できる時に、できることを、責任をもって

**【主な活動内容】**

- ・自主活動（施設訪問、合宿、クリスマス会 他）
- ・グループ運営活動（定例会、勉強会、会報・風跡 他）
- ・協力（施設行事、市民イベント、団体イベント 他）
- ・参画活動（ふれあいのつどい、ボランティアフェスティバル 他）
- ・個人活動（ボランティアスクール、ぼらんていあ飛行船、ヤングの主張、各高校での福祉活動 他）
- ・エトセトラ活動（ボランティアセンター、ボランティア協会関連事業 他）
- ・「プロジェクト」活動・・・今年度の春合宿では『子ども』について考えることをテーマとして研修を行い、「子どもプロジェクト」を立ち上げ、現在子どもの活動支援を行っている。

**【組織体制】**

- ① メンバーは各活動スタッフに属し、一人ひとりが役割を持つ。そして「自分の仕事だけをやるのではなく、他のスタッフと協力してスムーズに“風”を吹かせていこう」と呼びかけ合っている。
- ② “風”の卒業生たちは「学生メンバー」「社会人メンバー」として組織化され、高校生の活動をバックアップしながら彼ら自身も活動を続けている。
- ③ アドバイザーとして、足利市民活動センター、足利市社会福祉協議会、足利Y M C Aスタッフが位置づけられていて、彼らの活動を見守っている。

平成15年度は、「第1回全国高校生ボランティア・リーダーズ・サミット in 足利」に参加することができた。全国事例発表、みんなでワークショップ、グループゼミ、フィールドワーク、サミット宣言などとおして、様々な人と関わり、全国の高校生グループとの交流もできてネットワークが広がった。そこで受けた刺激が、今年の「子どもプロジェクト」活動へとつながっている。

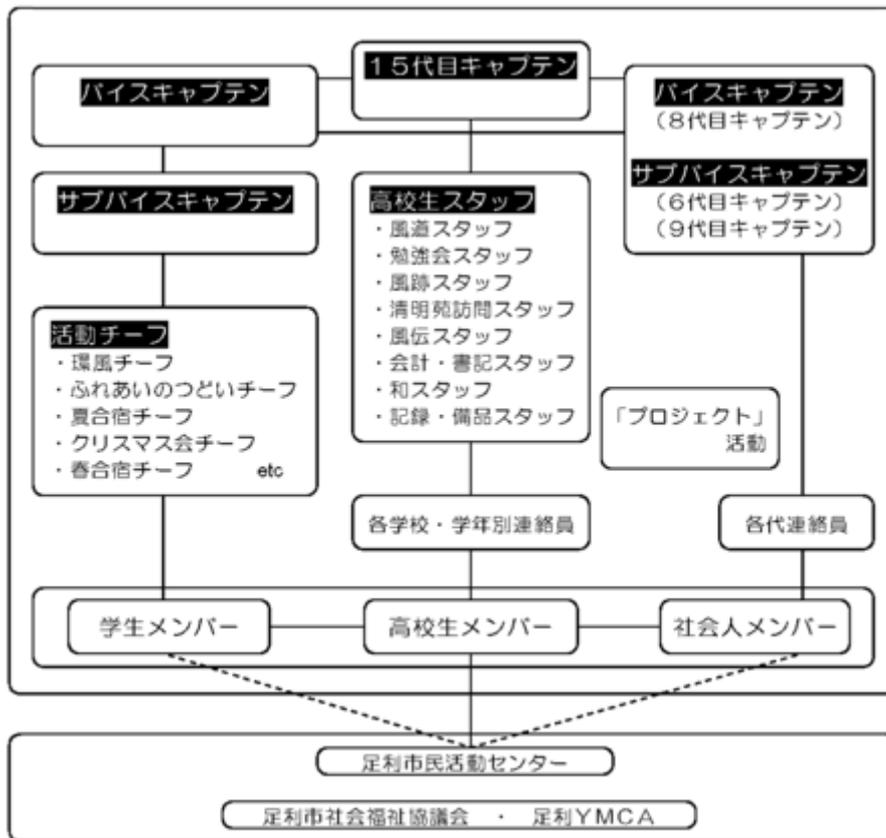
**ボランティアグループ“風”**

代表者 新井 千恵（15代目キャプテン）

所在地 〒326-0051

足利市大橋町1丁目2006番地3 足利市民活動センター内

電話/FAX 0284-44-7311/0284-44-7312



【15代目キャプテンのことば】

“風”は、高校生・学生・社会人とふだんではなかなか関わることのできない人たちと関わることのできる場所だ。これからも先輩たちにアドバイスをいただきながら、年代差を感じさせない一つの大きな輪として活動していきたい。

多くの方々に支えられながら活動ができるということを忘れずに、“風”も多くの人の役に立てるような活動をしていきたい。

「ボランティアグループ“風”」は、高校生を中心としている。先輩である学生メンバーや社会人メンバーの知恵や力を借りて、自分たちの「やりたいこと」を形にする。アドバイザーである大人は決してお膳立てをせず、彼ら自身がまわりの理解を得ながら実行していく。

毎年春には卒業生を送り、また新しい仲間を迎える。先輩たちからの歴史の重みを肩に感じながら、いつも「自分たちの代でつぶしたくない」というところがスタートで、「完成しないから続いている」のだという。

高校生としての活動に期限があることで、かえって成長を促し、後輩の育成という観点が早い時期から形成されている。また、後輩を支援することを通じて、自分の学びが高度に継続されている。

こうした活動を支えるためには、大人の指導者が高校生の人格と権利を認め、尊重していく教育的視点が不可欠である。